

令和4年度 健康・福祉に関する諸計画の推進に関する意見書

令和5年3月31日
多治見市地域福祉計画評価委員会
委員長 海老諭香

(1) 生活応援員の充実

住み慣れた地域で生活していくための取組の一つとして、生活応援育成講座を開催し、生活応援員の育成に努めておられます。育成講座では、緩和型訪問サービス事業所やボランティア団体の活動状況等を説明し、講座の認定を受けた人を就業に結びつける活動を試みますので、このような取組を通じて福祉分野に関心を持つ人材を増やし、介護人材の確保・育成に繋げて下さい。

(高齢者保健福祉計画－1 地域包括ケアシステムの強化・充実－4 介護人材の確保・育成)

(2) インクルーシブ教育の推進

早期からの子育て相談や保護者を対象にした就学相談、未就学児に関する小学校との情報共有などによって、就学時の困りごとが軽減され、保護者が安心して子どもを学校に通わせることができる環境が整えられています。

また、支援チームによる幼稚園や保育園および学校への巡回相談は、幼児から中学校までの切れ目のない伴走的な支援に繋がっていきますので、このような活動を継続し、積極的に進めて下さい。

(障害者計画－3 ふれあいのある生活のために－1 インクルーシブ教育の推進)

(3) ボランティアの育成と継続的な支援

小中学生によるボランティア活動やジュニアリーダー育成のための研修会を実施してみえます。地域行事での子どもによるボランティア活動や、主体的なボランティア活動への参加を促す活動など、様々な取組をされています。

高齢化が進み地域でのゴミ出しや草取り等のボランティアを募る活動がされていますが、なかなか人材が集まらないのが現状です。

子ども時代に経験したボランティア活動が将来に役立つような取組を、今後も継続して下さい。

(地域福祉計画－4 地域福祉に関する活動への住民の参加の促進に関する事項－2 地域福祉の将来の担い手の育成)